

研究班番号【 33 】
献立の時短化と利便性

情報班:橋本 義貴 山本 衣織 園田 碧 胡 昊文 小松 央和

Abstract

In order to reduce the amount of time spent thinking about menu planning, which is the primary cause of the decrease in the number of young people who cook for themselves, we learned programming and developed a website using google apps script. As a result, we were able to make the site more convenient by incorporating an objective viewpoint through surveys, but we were not able to get students to actually use the site.

要約

若者を中心に自炊している人が減少しつつあることから、私たちはその主な理由に当たる献立を考える時間を減少させるサイトを、プログラミングを学び、google apps scriptを用いて開発した。今回の研究では、アンケートなどによって客観的な視点を取り入れ、それを参考にしたサイトを開発することができた。

しかし、実際に利用者からのアンケートを取る段階まで至らなかったため、今後の展望としてQRコードを配布して実際に生徒に使ってほしい。

1. はじめに

現代社会において、特に若者を中心に自炊する人が減少しつつある。その背景には、献立決め の 難しさや料理の手間が大きな障壁となっていることと考えられる。毎日の食事を考えるのは時間と労力を要し、バリエーションを持たせるのは容易ではない。そこで私たちは、普段の献立をもとに日々のメニューを簡単に決められるサイトを開発することにした。

普段料理をすることがありますか
95件の回答

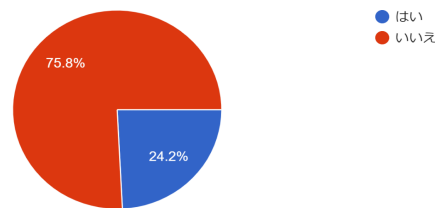


図1 校内の生徒(95人)に取ったアンケート

2. 研究手法

《実験1》

校内の生徒にアンケートを取り、普段料理をするか、献立を考えることに対する手間についての現状を調査する。

《実験2》

google apps scriptを用いて、複数の食材の条件を組み合わせることでより利用者の好みに合う料理を提案するサイトを作成し、利用者からのアンケートを取り、実際に献立を考える手間が軽減されたかの結果を収集する。

3. 結果

高津生(78期95人)に献立についてのアンケートを取った。「普段料理をすることがありますか。」という質問に対しては、「はい」が75.8%で、「いいえ」が24.2%という結果になった。また、「料理をすることがない理由は何ですか。」という質問に対しては、「時間がない」が41.7%で、「料理が苦手」が19.4%で、「興味がない」が22.2%と、多くの生徒が料理に対してネガティブなイメージを抱いていることが分かった。

以下のようなサイトができた。URLは以下の通りである。

<https://script.google.com/a/macros/e.osakamanabi.jp/s/AKfycbygXbrsl2zezUBFfY2XoGyn-vD6OZtQpft5qmepAcAlAdsP3xFlsmsqqLUXPrFfQ4G/exec>

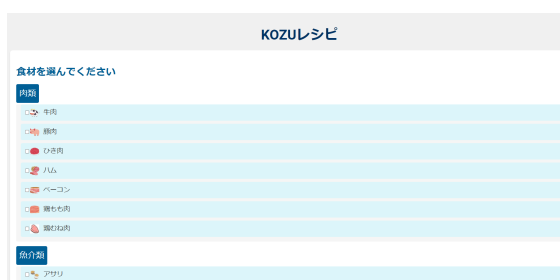


図2 実際に制作したサイトのトップ画面とQRコード

4. 考察

二年生に向けに行ったアンケートの結果から、最近では自分で料理をする若者は確かに減少したことがわかる。それは外食文化の拡大に加えて、若者の時間短縮を求めるニーズに応えたインスタント食品の普及が理由として考えられる。そして、今回開発したアプリが自炊の時間短縮に貢献することで料理をする若者の増加につながると思われる。

5. 結論

校内でアンケートをとり、その客観的な意見を意見を参考にした献立サイトを作ることができた。サイトは完成したが、実際に利用してもらうことはできなかった。実際に利用者にアンケート等を行い、使い心地や実際に時間の短縮ができたかを調査する必要がある。

また、現在すでに多くの料理サイトが存在しているので、高津生の好きな食べ物をアンケートで聞き、ランキングを作り上位の食べもののレシピを載せることで他のサイトとの差別化をすることが今後の課題である。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

『cookpad』 <https://cookpad.com/jp>